

本日の内容

1. 第1回選書図書に対する意見交換
2. 図書館からのお知らせ

1. 第1回選書推薦図書一覧（推薦順）

No.	書名
1	統計的因果推論
2	Causality : models, reasoning, and inference
3	医療4.0 : 第4次産業革命時代の医療
4	ズルいくらいに1年目を乗り切る看護技術
5	文化現象としての癒し : 民間医療の現在
6	帰してはいけない外来患者
7	帰してはいけない小児外来患者
8	基礎から学ぶ遺伝子工学(第2版)
9	ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話
10	出生前診断受ける受けない誰が決めるの？

No.	推薦理由
1	今年個人的に「因果推論」をテーマにレビューしていきたいと思います。(昨年は「社会医学」をベースにレビューしておりました)今日のミーティングでもAI・機械学習の話もあがっていましたが、最近では機械学習やベイジアンネットワークを用いたモデル開発研究が医学系研究でも急増しております。これらのモデルを検討する際には、因果推論の考え方が不可欠です。しかしながら、医学図書館には因果推論に関する書籍は少ないのが現状です。(以前調べましたが、2~3冊くらいでしたかね...)そこで今回、因果推論の大家であるPearl先生とRubin先生の名著を軸にレビューしたいと思います！第1弾はPearlの書籍です。少し古いですが日本語訳の書籍と、原著の第2版(最新版)との2冊を推薦させていただきます。原著は個人的にすでに読んでいたのですが、日本語訳の書籍も蔵書してあると学生がとっつきやすいかと思っておりますので、両方の蔵書をご提案させていただきます。レビューは日本語訳をベースに行います(私も読んだことないので)。原著との違いなどもあれば言及したいと思います。
2	<p>・Pearl先生の図書は統計寄り、Rubin先生の図書は疫学寄りの内容となっている。まずは統計よりの本の紹介として第1段はPearl先生の図書をレビューする。</p> <p>・対象者は学生か研究者か？初学者にも読めるのであれば、それもレビューに組み入れてもらいたい。→ AIや機械学習に興味のある全ての人に読んでほしい。初学者には難しいかもしれないが、じっくり読めば理解できる本。前半を読み切れれば後半読むのが楽になってくるはず。</p>

3	<p>最近書店に並んでいる「10年後の仕事図鑑」の医療現場版という印象を持っています。高齢化、現役世代の減少、社会保障費の増大といった問題に対して、テクノロジーを最大活用した医療が提案されています。治療だけでなく、予防がこれからの時代大事であると感じることのできる1冊です。附属図書館に所蔵されておりますが、多くの医療系学生に読んでほしいと思ったので推薦させていただきます。</p> <p>・AI・人工知能が学びや研究の場にどのように入り込んでいると感じるか？</p>
4	<p>来年から就職する看護学生さんが抱える不安の解消のきっかけとなるのではと考えています。先輩ナースから必ず聞かれる事柄や確実に知っておきたい看護技術がコンパクトにまとめられています。写真ではなく、イラストで描かれているというところがもの足りない気がしますが、、</p> <p>・看護師として就職した1年目の4・5月という、限られた時期ながらも一番大変なスタートアップの時期を乗り切るためのお守りのような本となるはず。</p> <p>・イラストで描かれているというのが分かりやすく面白いです。 レポートを書く際にもイラストは役立つ。図を描く時に実際の画像からの書き起こしは大変だが、イラストで見本があれば助かる。</p>
5	<p>医療社会学(医療が社会のなかでどのような役割・機能を果たしているのかを明らかにする学問)の本で、全学の図書館にないもの、ということでこれを選びました。民間医療は「ただうさんくさいもの」として片付けがちですが、なぜそれを選択する人がいるのか、どのようにメディアで報じられているのか、など、医療社会学のアプローチから考えることで、未来の医療者に重要な示唆を与えてくれると思います。ひいては、近代医療を相対化/俯瞰できる一冊として、この本を推薦します。</p> <p>・普段の学びの中ではメインではない分野だと思うがどういう時に役立てたいか(役立った)と感じるか？</p>
6	<p>臨床のイメージが湧きやすそうな本で、ciniiで調べても所蔵館が多いから。</p>
7	<p>・教科書での座学座学から具体的な臨床現場に出ていくときに役立てるためのタイトルだが、どういった内容を期待して読んでいるか？どんなことが載ってほしいと思いつつながら本を選んでいくか？</p>
8	<p>以下レビューしたい書籍を紹介いたします。私はアルツハイマー病の病理について分子生物学的アプローチから研究しており、普段の実験ではDNAやRNAを扱っています。DNA・RNAといった核酸分子は多くのラボで使われていますがその実験手法はさまざまです。最近ではCRISPR/Cas9システムによるゲノム編集が有名となり、皆さんも聞いたことがあるかと思いますが、他方、古典的な実験の1つにPCRがありますが、これにも様々なバリエーションが存在します。こうした遺伝子工学は今日の基礎医学研究の発展に多く寄与してきました。私も遺伝子工学について色々な本を読んで勉強しているのですが、実験系の書籍では著名な田村隆明氏が書かれました2017年出版の「基礎から学ぶ遺伝子工学 第2版(羊土社)」を今回のレビュー候補にしようと考えております。本書はその遺伝子工学の中でも基礎的な知識・手法をまとめておりますが、実際に手を動かして実験するようになった学生(実験初心者)にとって非常に参考になると思いました。初版(2012年)はすでに医学図書館に所蔵されているみたいですが、改訂までの5年間で遺伝子工学は着実に発展してきました。第2版の序では「追加項目は次世代シーケンサーとその応用、クロマチン・エピゲノム解析、RNAや遺伝子発現に関する事項、ゲノム編集...」と述べられており、ここ数年で確立されてきた新しい技術が多く追加されページ数も増えています。</p> <p>・医学図書館には勉強用の本はあるが、実験などに際して、「使う」本は少ない。</p> <p>・万人向けで、初学者に読んでもらえる本として選書した。前半は基本的な事項が書かれており、後半には新しい技術の紹介もされている。また、実用的な情報も盛り込まれている。</p> <p>・遺伝子工学の実験手法は古くても現在に通用するものも多く、新しい手法も古い手法に基づいていることが多い。一方で、新しい技術についてとりあげた本も少なくないが、農学の方で購入されていることが多く、医学図書館でももっと取り入れてもらえたらうれしい。</p>

9	<p>実際の現場では、ケアの根拠が不確かなことがあります。助産師のケアにも多いように感じています。そこで、エビデンスとして信頼性の高いコクランレビューを元としている本書によって、より良いケアを考え直すきっかけになればと思い、推薦致しました。ちなみに、他大学での所蔵も多いようです。</p> <p>・助産について知識だけでなくその根拠も確認しながら学べる本として紹介できる。</p> <p>・この本に載っているコクランレビュー内の文献をきっかけにコクランレビューを使ってもらえそう。</p>
10	<p>近年急速に広まりつつあるNIPT。しかしながらその取扱いに関しては統一の見解はない。新しい技術であるが故、日本語のNIPT関連書籍は非常に少ないのが現状である。本書は中でも比較的専門家向けに書かれたものである。</p> <p>・NIPTについては様々な議論の展開があり、その紹介もしたい。 (例えば、まさに今年のトピックだと、風疹罹患者の子供の診断をどうするかという議論がある。また、生命倫理の話として広げていけば、ゲノム編集の是非、旧優性保護法の改訂、心理学者の見解等と関連付けたレビューもできる)</p>

2. 図書館からのお知らせ

- ・レビュー提出〆切について

- 【12月25日(火)】

※ただし上記〆切はあくまで目安で、

都合の良い時期について個別相談のうえ、おおよその〆切時期を設定

- ・第2回選書のスケジュールについて

- 今回の推薦図書のレビュー完成・展示が年明け早々の予定

(附図・吉田南等他館でも広報に協力いただける予定です！)

- 年明け以降に各自の予定（修論や実習）に障りのない範囲で新しく図書を推薦する

(可能なようであれば年明けを待たずに推薦してもよい)